

教職課程

自己点検・評価報告書

令和8年3月

高知学園短期大学

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検・評価	1
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく 協働的な取り組み	1
	基準領域2 学生の確保・指導・キャリア支援	3
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	4
III	総合的な自己点検・評価結果及び改善計画	7
IV	教職課程 自己点検・評価報告書作成のプロセス	7

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の設置状況

本学においては、看護学科、地域看護学専攻科及び幼児保育学科に教職課程を設置し、看護学科及び地域看護学専攻科では養護教諭免許状、幼児保育学科では幼稚園教諭免許状の取得を可能としている。各学科・専攻科における教職課程は、教育職員免許法及び同施行規則に基づき適切に編成されており、所定の単位修得により免許状取得が可能となっている。

2 学科別にみた教職課程の現況

(1) 看護学科

看護学科では、養護教諭二種免許状取得に対応した教職課程を設置している。看護学の専門教育を基盤としつつ、教育の基礎的理解に関する科目、学校保健に関する科目、教育実践に関する科目等を体系的に配置している。養護教諭を志望する学生の多くは、より高度な専門性を身につけるため地域看護学専攻科へ進学しており、学科段階では養護教諭としての基礎的資質・能力の形成を重視した教育を行っている。

(2) 地域看護学専攻科

地域看護学専攻科では、養護教諭一種免許状の取得を目的とした教職課程を設置している。学校保健・健康教育に関する専門性を一層深化させるとともに、養護実習を通じて、児童生徒一人ひとりの健康課題に応じた対応力、学校組織内外との連携力を養成している。実習では、観察力、アセスメント力、判断力の向上が重視されており、理論と実践の往還を意識した指導が行われている。

(3) 幼児保育学科

幼児保育学科では、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得を可能とする教職課程を設置している。教育・保育の本質や幼児理解に関する理論とともに、教育実習を通じた実践的指導力の育成を重視している。学生は実習を通して、子どもの発達段階や個性に応じた関わり、環境構成や指導計画の立案・実践に関する力を段階的に身につけている。

3 教職課程の特色

本学の教職課程は、専門職養成を基盤とする教育課程の中に教職課程を位置づけ、専門職養成課程における専門科目と教職科目を有機的に関連づけることにより、専門性と教育実践力の統合的育成を図っている点に特色がある。特に、看護学科及び地域看護学専攻科においては、看護職としての専門的視点を生かした学校保健・健康支援の実践力育成を重視している。また、幼児保育学科においては、幼児期の発達特性を踏まえた教育実践を通じて、子どもの最善の利益を尊重する姿勢の涵養を図っている。

II 基準領域別の自己点検・評価

【基準領域1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく共同的な取組】

1 基準項目ごとの自己点検・評価

(1) 基準項目1-1：教職課程教育に対する目的・目標の共有

① 現状説明

本学では、教職課程に関する目的・目標について、教職課程に関する事項を審議する教職課程委員会を中心に共通理解を図っている。

【看護学科】

看護学科においては、養護教諭二種免許状取得を通して、看護職としての専門性を基盤に、学校における健康支援を担う養護教諭としての基礎的資質・能力を育成することを目的としている。これらの目的・目標は、教職課程担当教員間で共有され、授業及び実習指導に反映されている。

【地域看護学専攻科】

地域看護学専攻科では、養護教諭一種免許状取得を目的とし、児童生徒の健康課題に専門的かつ組織的に対応できる養護教諭の養成を目標としている。教職課程の目的・到達目標は、実習指導を含めて教員間で確認され、指導方針の共有が図られている。

【幼児保育学科】

幼児保育学科では、幼稚園教諭二種免許状の取得を通して、幼児期の発達特性を理解し、教育の実践力を備えた幼稚園教諭の養成を目的としている。教職課程の目的・目標は、授業及び教育実習を通じて段階的に達成されるよう、理論と実践の往還を重視しつつ体系的に構成されている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・履修要項
- ・教職課程カリキュラム表
- ・FD・SD実施記録

② 長所・特色

各学科・専攻科の特性に応じた教職課程の目的・目標が明確に設定されており、教職課程担当教員がこれらを共有した上で教育活動を行っている点は長所である。特に、実習における学生の成長や課題について教員間で共有し、目的・目標に照らした指導の改善に努めている。

③ 取組上の課題

学科・専攻科ごとに免許種別や専門分野が異なるため、短期大学全体としての教職課程の目的・目標の体系化や、学生に対する一層の可視化が課題である。今後は、目的・目標の整理と共有方法の工夫が求められる。

(2) 基準項目 1－2：教職課程に関する組織的工夫

① 現状説明

本学では、教職課程委員会を設置し、教職課程の編成、運営、自己点検・評価について組織的に取り組んでいる。

【看護学科・地域看護学専攻科】

養護教諭養成に関わる教員が連携し、授業内容や実習指導、学生の評価について情報共有を行っている。養護実習後には学生の振り返りを基に指導内容の検討が行われている。

【幼児保育学科】

教育実習に関して、担当教員間で学生の状況や課題を共有し、段階的な指導体制の構築を図っている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・教職課程運営体制図
- ・実習指導体制資料
- ・担当教員一覧

② 長所・特色

教職課程委員会を核とした組織的な運営体制により、教職課程全体の円滑な運営が図られている点は特色である。各学科・専攻科においても、実習指導を中心に教員間の連携が機能している。

③ 取組上の課題

実習評価の観点や指導内容について、学科・専攻科間でのさらなる整理と共有が課題である。今後は、組織的な協議の充実を通して、教職課程全体の質保証を一層強化していく必要がある。

【基準領域2：学生の確保・指導・キャリア支援】

1 基準項目ごとの自己点検・評価

(1) 基準項目2-1：教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

① 現状説明

本学においては、看護学科、地域看護学専攻科及び幼児保育学科それぞれのアドミッション・ポリシーに基づき、教職課程を履修するに相応しい基礎的学力、規律性、対人関係能力を備えた学生の受入れを行っている。入学後は、履修ガイダンスや個別面談等を通して、教職課程履修に対する意思確認を行い、学生の志向や適性を踏まえた履修指導を実施している。

看護学科では、養護教諭志望者の多くが地域看護学専攻科への進学を前提としているため、学科段階では教職への関心を醸成し、基礎的資質・能力を育成することを位置づけとしている。地域看護学専攻科では、明確に養護教諭を志望する学生が入学しており、目的意識の高い学生確保がなされている。

幼児保育学科では、幼稚園教諭及び保育士を志望する学生を中心に入学者を確保しており、入学時点から教職への意欲を有する学生が多い。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・入学者選抜要項
- ・入学者数および志願状況データ
- ・教職課程履修者数一覧
- ・免許取得者数データ

② 長所・特色

本学の特徴として、専門職養成学科を基盤として教職課程を設置しているため、教職に対する動機が比較的明確な学生が一定数在籍している点が挙げられる。看護学科・地域看護学専攻科においては、看護職としての専門性と学校教育への関心を併せ持つ学生が養護教諭を志望しており、専門的視点を生かした教職志向が育まれている。

幼児保育学科では、入学初期から実習を見据えた教育を行うことで、学生自身が教職への適性を自覚しながら学修を進めることができている。実習や授業を通して、教職に対する理解を深めた上で進路を考える機会が確保されている点は長所である。

③ 取組上の課題

一方で、入学時点における教職理解には個人差があり、学修を進める中で教職への適性や進路を再考する学生も見受けられる。特に看護学科においては、養護教諭志望が専攻科進学後に本格化するため、学科段階での動機づけや早期からのキャリア意識形成が課題である。

今後は、入学前・入学後の情報提供やガイダンスの充実を図り、学生が教職の内容や責任を十分に理解した上で履修選択ができるよう、継続的な支援が必要である。

(2) 基準項目2-2：教職へのキャリア支援

① 現状説明

教職を志望する学生に対しては、各学科・専攻科において履修指導に加え、教職課程担当教員やキャリア支援部門と連携した進路相談を行っている。採用試験に関する情報提供、実習後の振り返りを踏まえた助言、個別面談等を通して、学生の進路形成を支援している。

地域看護学専攻科では、養護実習や学校現場での学びを踏まえ、養護教諭としての具体的な職務理解や課題意識を深める指導が行われている。

幼児保育学科においては、教育実習を通して教職への適性を確認しながら、就職支援を行っている。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・進路状況一覧（教職就職者数を含む）
- ・教員採用試験対策実施記録
- ・個別面談記録（実施状況一覧）

② 長所・特色

実習を重視した教育課程を通して、学生が自らの適性や課題を自覚し、その上で教職を進路として選択できる点は、本学のキャリア支援の特色である。学生の実習に対する振り返りからは、教職のやりがいや責任の重さを理解した上で、将来像を具体的に描こうとする姿勢がうかがえる。

幼児保育学科では、幼稚園教諭として一定数の正規採用実績があり、実践的指導と進路支援が就職実績の確保につながっている。地域看護学専攻科においても、臨時採用を含め、学校現場で経験を積む進路選択がなされている。

③取組上の課題

教員採用試験の競争倍率や採用状況の変動等を踏まえると、より計画的かつ個別的な支援体制の強化が必要である。特に養護教諭については採用枠が限定的であるため、情報提供の充実や面接指導の体系化が課題である。今後は、早期からの進路意識形成と継続的支援体制の整備を図る。

【基準領域3：適切な教職課程カリキュラムの作成】

本基準領域については、免許種別や教育対象、実習形態が学科・専攻科ごとに大きく異なることから、各学科・専攻科の特性を踏まえた記述とすることが適当である。そのため、以下では基準項目ごとに、学科別に①現状説明、②長所・特色、③取組上の課題を整理する。

1 基準項目3-1：教職課程カリキュラムの編成・実施

(1) 看護学科（養護教諭二種）

① 現状説明

看護学科では、養護教諭二種免許状取得に対応した教職課程を、看護学の専門教育と並行して編成している。教育の基礎的理解に関する科目、学校保健に関する科目、教育実践に関する科目を体系的に配置し、段階的に教職への理解を深める構成としている。特に、看護専門科目で培った基礎的知識・技術を、学校保健の視点で捉え直すことを重視している。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・シラバス（教職関連科目）
- ・教育課程編成表
- ・実習要項（養護実習）
- ・実習評価票

② 長所・特色

看護学の専門性を基盤としたカリキュラム構成により、児童生徒の健康課題を医学的・看護学的根拠に基づいて理解する力の育成が図られている点が特色である。また、地域看護学専攻科への接続を意識した内容となっており、養護教諭としての基礎的資質・能力形成に重点を置いた教育が行われている。

③ 取組上の課題

一方で、短期間で教職科目と看護専門科目を並行して履修する必要があるため、学修負担が大きくなりやすい点が課題である。今後は、科目間の関連性をより明確に示し、学修内容の整理や振り返りを促す工夫が求められる。

(2) 地域看護学専攻科（養護教諭一種）

① 現状説明

地域看護学専攻科では、養護教諭一種免許状取得を目的とした教職課程を編成し、学校保健・健康教育に関する専門性を深化させている。講義と養護実習を連動させ、理論と実践を往還しながら学修できるよう工夫している。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・シラバス（教職関連科目）
- ・教育課程編成表
- ・実習要項（養護実習）
- ・実習評価票

② 長所・特色

養護実習を核としたカリキュラム構成により、児童生徒の観察力、アセスメント力、判断力の向上が図られている点が大きな特色である。学生の実習に対する振り返りからは、個別性を尊重した対応や、学校組織内外との連携の重要性を理解している様子が確認できる。

③ 取組上の課題

実践力をさらに高めるためには、実習前後の振り返りや事例検討の一層の充実が必要である。また、多様化する健康課題に対応するため、最新の学校保健動向を反映したカリキュラムの継続的見直しは課題である。

(3) 幼児保育学科（幼稚園教諭二種）

① 現状説明

幼児保育学科では、幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目を、保育士養成課程と一体的に編成している。幼児理解、保育内容の指導法、教育実習を段階的に配置し、理論と実践の接続を重視したカリキュラムを実施している。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・シラバス（教職関連科目）
- ・教育課程編成表
- ・実習要項（教育実習・保育実習）
- ・実習評価票

② 長所・特色

教育実習等を通じて、幼児の発達段階や個別の状況に応じた指導・支援の在り方を実践的に学修できる点が特色である。学生の振り返りからは、主体的に課題に取り組む姿勢や、幼児教育の意義ややりがいを実感しながら学びを深めている様子がうかがえる。

③ 取組上の課題

一方で、時間配分や安全配慮、子ども一人ひとりに応じた関わりについては、引き続き指導の充実が求められる。今後は、実践場面を想定した演習や指導案作成指導の強化が課題である。

2 基準項目 3-2：実践的指導力養成と地域との連携

(1) 看護学科・地域看護学専攻科

① 現状説明

養護実習を通じて、地域の小・中学校と連携し、実践的指導力の養成を行っている。実習では、学校現場の養護教諭の指導の下、児童生徒への対応や学校保健活動に参加している。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・実習協力校一覧
- ・実習依頼文書および受入承諾書
- ・実習巡回指導記録
- ・地域連携事業報告書

② 長所・特色

地域の教育現場との継続的な連携により、実際の学校課題に即した学修が可能となっている。学生は、地域や家庭背景を踏まえた支援の重要性を理解し、養護教諭の役割を多角的に捉える力を養っている。

③ 取組上の課題

今後は、学校外の専門機関との連携についても理解を深める機会を拡充し、より広い視野での実践力養成を図る必要がある。

(2) 幼児保育学科

① 現状説明

地域の幼稚園等と連携し、教育実習を計画的に実施している。実習を通して、地域の実情を踏まえた幼児教育の実践的理解を深める機会を確保している。

〈根拠となる資料・データ等〉

- ・実習協力園一覧
- ・実習依頼文書および受入承諾書
- ・実習巡回指導記録

② 長所・特色

地域の実習施設との継続的な連携により、多様な幼児教育の現場を経験できる環境を整備している。実習後の記録からは、地域の子育て環境や家庭背景を踏まえた幼児教育の役割についての理解が深まっていることが確認されている。

③ 取組上の課題

今後は、地域連携の学修成果を学内で共有し、授業内容に還元する仕組みの強化が課題である。

Ⅲ 総合的な自己点検・評価結果及び改善計画

1 総合的な自己点検・評価結果

本学（看護学科、地域看護学専攻科、幼児保育学科）における教職課程は、各学科・専攻科の専門性を基盤としつつ、教育職員免許法及び関係法令に基づき、体系的かつ適切に編成され、関係法令に則り実施されていることを確認した。

基準領域1においては、教職課程の目的・目標について教職員間で共通理解を図り、学科横断的な連携体制のもとで組織的運営が行われていることを確認した。特に、実習指導や履修指導においては、教職科目担当者と専門科目担当者が連携し、学生の学修状況を共有しながら指導にあたっている点は組織的な指導体制が構築されているものとして評価できる。

基準領域2においては、入学段階から教職志向を有する学生の確保に努めるとともに、履修指導、実習指導、採用試験対策等を通じて、段階的なキャリア支援を実施していることを確認した。とりわけ、幼児保育学科においては免許取得及び就職実績が確保されている。また、看護学科及び地域看護学専攻科においては、養護教諭として必要な専門性と実践力の育成に重点を置いた指導が行われている。

基準領域3においては、各学科・専攻科の専門分野の特性を活かした教職課程カリキュラムが編成され、理論と実践を往還する教育が実施されていることを確認した。実習を核とした実践的指導力の養成や、地域の教育機関との連携体制は、本学教職課程の特色の一つとなっている。

以上より、本学の教職課程は、全体として教職課程認定基準に照らして概ね適切な水準を維持していると総合的に判断した。

2 今後の改善計画

今後は、以下の観点から教職課程のさらなる充実を図る。

(1) 学修成果の可視化と評価体制の強化

到達目標と評価方法の対応関係を整理し、評価指標の明確化を図るとともに、ポートフォリオ等の活用により学修成果の継続的把握体制を整備する。

(2) 実習指導体制の一層の充実

実習前後の振り返り指導や事例検討の充実を図り、理論と実践の関連付けをより明確にする。また、実習校・実習園との情報共有を強化し、継続的な連携体制を構築する。

(3) キャリア支援の体系化

教員採用試験対策や進路相談の支援内容を整理し、早期からの計画的な支援体制を整備する。特に養護教諭については、採用状況の動向を踏まえた情報提供と個別支援を強化する。

(4) 自己点検・評価の継続的实施

年度ごとに点検結果を取りまとめ、次年度の改善計画に反映させる仕組みを明確化する。

以上の改善計画を着実に実行することにより、本学における教職課程の質の向上と社会的信頼の確保に努める。

Ⅳ 自己点検・評価報告書作成のプロセス

1 自己点検・評価体制の概要

本学における教職課程の自己点検・評価は、学長の統括のもと、教職課程を有する各学科・専攻科の代表教員を中心に構成された教職課程委員会が主体となって実施した。教職科目担当者、専門科目担当者、実習担当教員が連携し、学科横断的な体制を構築している。

また、必要に応じて教務委員会等の関連委員会と情報共有を図り、教職課程の運営状況、履修状況、実習実施状況、進路状況等を総合的に把握する体制を整備している。

2 自己点検・評価の実施方法

自己点検・評価は、教育職員免許法施行規則および文部科学省が示す「教職課程に関する自己点検・評価」の趣旨を踏まえ、基準領域および基準項目ごとに実施している。各学科・専攻科において現状の取組状況を記述し、成果と課題を明確化する方法を採用した。

実施にあたっては、シラバス、履修要項、実習要項、学生の履修状況データ、実習報告書、進路実績等の資料を活用し、記述内容との整合性を検証した。また、担当教員間での意見交換を通して、記述内容の妥当性と共通理解の形成を図った。

3 報告書作成のスケジュールおよび経緯

本報告書は、年度当初に作成方針及び分担を決定し、各学科・専攻科において基準領域ごとの原案作成を行った。その後、全体会議において内容の整合性を確認し、記述の統一及び修正を経て最終案を取りまとめた。

作成過程においては、高知学園大学健康科学部管理栄養学科の報告書様式との整合性を図り、高知学園短期大学としての統一性を確保することに留意した。

4 点検・評価結果の活用と改善への反映

本自己点検・評価で明らかになった成果及び課題については、教職課程の運営改善に活用する。具体的には、カリキュラムの見直し、実習指導体制の充実、キャリア支援体制の強化等に反映させる。

また、自己点検・評価を単年度の取組にとどめることなく、継続的な点検と改善を行うPDCAサイクルを確立し、教職課程の質保証を組織的に推進する。

5 情報公開と説明責任

本報告書は本学ウェブサイト等を通じて公表し、透明性の確保に努める。

今後も、教職課程の運営状況や改善状況について、適切な情報公開を行い、学生、保護者、地域社会及び関係機関に対する説明責任を果たしていく。

現況基礎データ票（令和8年3月31日現在）

設置者	学校法人高知学園			
大学名称	高知学園短期大学			
学科・専攻科の名称	幼児保育学科 看護学科 地域看護学専攻科			
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等	幼児保育学科	看護学科	地域看護学専攻科	
① 令和7年度卒業生数	43	62	25	
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	41	39	25	
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)	42	6	4	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	6	1	2	
④のうち、正規採用者数	5	1	0	
④のうち、臨時的任用者数	1	0	2	
2 教員組織				
教員数	教授	准教授	講師	その他
幼児保育学科	6	1	2	1
看護学科	5	4	5	5
地域看護学専攻科	2	2	1	0